

## 第7回 教育推進プラン・江東策定委員会 会議録

日時：令和8年1月28日（水） 18:00～19:05

場所：江東区役所 庁舎7階 71・72会議室

### 【会議次第】

- (1) パブリックコメントの実施結果について
- (2) (仮称)教育推進プラン・江東(第3期)(案)について
- (3) その他

### 【出席者】

<委員> (敬称略・順不同)

若林 彰、前島 正明、向井 眞幸、福山 憲治、吉田 覚、星野 清志、山中 聡、池田  
香菜子、大平 千鶴、川倉 祐美

<理事者>

教育長 本多健一朗、教育委員会事務局次長 青柳幸恵、庶務課長 瀧澤慎、企画課長 小  
林愛、総務課長 保谷俊幸、スポーツ振興課長 鳴川裕三、青少年課長 篠崎 修、養育支  
援課長 桑島 麻未、学校施設課長 西尾基宏、学務課長 瀧川久輝、指導室長 金指大輔、  
教育支援課長 木内苗津子、地域教育課長 大田修一、江東図書館長 吉木一浩、深川図書  
館長 梅村英明、第五砂町小学校校長(小学校長会代表) 小林英忠、第三砂町中学校校長  
(中学校長会代表) 福田克彦、みどり幼稚園園長(幼稚園長会代表) 貞方功太郎

### 【欠席者】

<委員> 田中弘子

## 【議事概要】

### ○委員長

定刻になりましたので、始めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。本日は第7回の策定委員会となります。

寒い日が続いておりますが、学校の方は、インフルエンザも流行っているとインターネットで見ましたけども、今のところいかがでしょう。

事務局の方から、連絡事項はございますか。

### ○庶務課長

池田委員は、本日オンラインでのご参加となっております。また本日のご出席についてですが、田中委員よりご欠席の連絡をいただいております。以上です。

### ○委員長

ありがとうございます。オンラインご参加の池田委員、聞こえますでしょうか。何かありましたら、途中でお声がけください。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。

まず、議題1「パブリックコメントの実施結果について」です。どうぞ説明よろしくお願ひします。

### ○庶務課長

パブリックコメントの実施結果についてご報告します。資料1、別紙1をそれぞれご参照いただければと思います。資料1に沿ってご説明をいたします。

「1 実施概要」でございます。令和7年12月11日（木）から令和8年1月9日（金）の30日間、区のホームページ、郵送、FAXにて意見の受付をしたところです。

「（1）実施結果」に記載のとおり、11人から意見の提出がありました。内訳としては、区のホームページから9名、郵送で2名となっています。お一人で複数意見を出されている方もおられましたので、提出された意見の数としては34件です。具体的な内容については、別紙1でそれぞれ個別に記載及びこちらからの回答を記載していますが、内訳としましては

テーマ4つのうち、こどもの学習につながるテーマ1「学び・育ち」から14件ということで最も多く、次に特別な支援が必要なこどもや多文化共生に関するテーマ2「自分らしさ」に関する意見が10件となっていました。具体的な意見と区の考え方について、それぞれ別紙1で記載をしております。詳細については、こちらをご参照いただければと存じます。説明は以上です。

#### ○委員長

委員の皆様、いかがでしょうか。事前にご覧いただいていたかとは思いますが、何か特にご意見、ご質問等ございますでしょうか。

#### ○委員

このような内容（パブリックコメントでの意見・回答）があったということは、学校に共有してもいいのではないかと思います。

#### ○委員長

こちらは、学校の方にも連絡をしてほしいということですが、その点いかがですか。

#### ○庶務課長

パブリックコメントの内容につきましては、まず全体として区のホームページで公表いたします。また、個別の内容、それぞれにつきましても、関係するところには「こういったものがあった」という形でお伝えすることも考えています。

#### ○委員長

よろしいでしょうか。それでは、このパブリックコメントの件につきましては終了させていただきます。ありがとうございました。

続きまして、議題2「（仮称）教育推進プラン・江東（第3期）（案）」につきまして、事務局よりご説明いただきます。

#### ○庶務課長

それでは、「（仮称）教育推進プラン・江東（第3期）（案）」についてご説明をいたします。資料2をご覧ください。

はじめに、「1 概要」です。前回の策定委員会までに計画の素案を取りまとめいただき

ましたが、今回、パブリックコメントの実施結果等、また内容について再度精査をし、計画（案）ということで取りまとめをさせていただきました。

「2 素案からの変更点」ということで、別紙2をご参照いただけますでしょうか。また、別紙3が本文となっておりますので、そちらとあわせてご覧ください。修正した箇所をご説明いたしますので、概要ページをご覧ください。はじめに、前回の策定委員会でもお話いただきましたが、第1章の「3 江東区の現状」におきまして、4ページにあります「本区の日本語指導が必要な児童生徒数の推移」のグラフに、最近のデータである令和7年度の数値、また、次の5ページ、「不登校・いじめの状況」のグラフについても、令和6年度、現在把握できている最新の数字を反映し、データを更新しました。あわせて、本文の分析内容も最新のデータに合わせて修正を加えているところです。

続きまして、第3章本編、分野別計画の修正についてです。まず、全体として誤字や脱字、表現が一部分かりにくい箇所がありましたので修正を加えております。内容について変更のあるものではございません。また、各ページに「こどもの意見」がトピックとして枠囲いで記載されていますが、こどもからの意見をそのまま記載していたため一部意味がわかりにくいところ等や表現が不統一の部分がありました。そこで、表現などを整えさせていただいています。個別の部分についてご説明をいたします。はじめに16ページ、テーマ1「学び・育ち」のうち「確かな学び」の「課題」の部分です。四番目に「DXを推進する環境整備」を追加しています。また、次の17ページ、施策（3）「ICT教育」ですが、当初、二つの項目の記載がありましたが、二番目の項目は記載内容が施策（1）に記載する方が適切であるとして移動をし、あわせて施策（3）の一項目のところにICT教育の趣旨である「こどもの情報活用能力の育成を推進するため」を追加しています。次に26ページをお願いします。テーマ2「自分らしさ」の「成果指標」、左の表の「特別支援教室支援完了者割合」ですが、こちらは一般的な用語でないため、注釈に説明を追加しました。「※3」です。

次に、47ページをお願いします。テーマ4「つながり」ですが、施策(60)「こども読書活動の推進」に、「安全安心な環境づくり」を追記するとともに、次の48ページのコラム「江東区立図書館ビジョン」について、ビジョンの概要がまとまりましたので、概要図を今回記載しています。また、先ほどご説明したとおり、「こどもの意見」は内容を要約し、読みやすくしたものです。誤字・表現を一部修正いたしました。内容を大きく変更するものではございません。なお、このページに写真を掲載しておりますが、こちらについても、よりふさわしいものを現在選定しているところです。また、24ページと32ページの「教育すなっぷしょっと」は、現行の第2期計画ではこどもたちの学校での取組などを写真で掲載しています。こちらも選定中ですが、「豊かな体験活動」や「幼稚園での教育」についての写真を掲載したいと選定を進めているところです。先ほどご説明しましたパブリックコメントでのご意見ですが、いずれも計画の記載内容に大きく変更が必要となるご意見はありませんでしたので、パブリックコメントに基づく修正は行っていないところです。以上が素案からの変更点の説明になります。

「4 今後のスケジュール」について、ご説明いたします。再び、資料2をご参照願います。本日の会議で計画最終案をおまとめいただきましたら、2月に教育委員会、3月に江東区議会第1回定例会の文教委員会にて協議を経た上で、本計画の策定になります。計画策定後、冊子を印刷・製本いたします。冊子が完成次第、委員の皆様にはご送付させていただきます。また、先般からご説明をしておりました計画の概要「こども版」についてもあわせて作成をいたします。区ホームページにおいて、計画と共に掲載したいと考えております。

以上、概要の説明になりますが、最後に一点でございます。これまで計画名に「(仮称)」を記載していましたが、本日ご了承いただきましたら、こちらの「(仮称)」を外し、正式に「教育推進プラン・江東(第3期)」といたしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

説明を終わります。

## ○委員長

ありがとうございます。本日は第7回ということで、皆様と7回にわたり検討して参りましたこのプラン、前回もかなり細かく見ていただきましたが、ここで出来上がったということを見ていただければと思っているところです。修正等がありましたので、今ご説明がりましたが、それを確認させていただきながら進んで行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご説明がありました第1章の4ページ「現状」で新しいデータが入ってきましたので、その数値を反映させましたということです。前回までは令和7年度、これはまだデータとして入っていなかったのが今回入れましたということです。このところについては何かございますか。よろしいでしょうか。4ページ、5ページのグラフとなります。

続いて、第3章「テーマ1」、16ページです。変更したところは赤字で入れていただいておりますので、赤字部分の確認をしていただければと思います。また、16ページの「課題」に「DXを推進する環境整備…効果的に求められます」これが前回から変更があった部分ということです。この文言が加わったという理解でよろしいですか。

## ○庶務課長

「DXを推進する環境整備」ということが今まで入っておりませんでしたので、そちらを加えさせていただきました。

## ○委員長

デジタルを活用したこれからの学び推進に向けて「DXを推進する環境整備」、すでに子どもたちには端末が1台ずつ配布されておりますので、さらにDXを推進する環境を整備して、一人一台端末を効果的に活用した授業・学習が求められる。前は端末を配布することが重要であったということでしたが、もう配布されたのでこれからはさらに効果的に活用していきたいという意図だそうです。コロナ禍で一気に進むというような話がありますが、一人に一台は必ず

持たせようという話が大きくあったわけですが、なかなか進まないのではないかなと私自身も数年前まで思っていたのですが、今、江東区では全児童生徒が一台端末を持っているという状態です。さらにこれを効果的に活用ということで、これはプランとしても上げていただいたということです。よろしいでしょうか。

17ページの確認です。「1 こども主体の教育」で、施策（1）の3つめに、「組織的な指導や学びスタンダード強化講師等の活用・・・」があります。これは、前回までは施策（3）のところに入っていましたが、施策（1）の方が適切ということで移動しましたということです。それから、施策（3）のところに新しく加わった言葉が、「こどもの情報活用能力の育成の推進」ということで、こどもの能力を高めていくということをしかりと述べていこうということに加わってきたということです。要するに、指導を高めていくということからさらにこどもの能力の育成ということをしかりと明記したというお話だそうです。いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

また、「こどもの意見」で、赤字になっています。前回はこどもの意見をそのまま書いていたのですが、意図は変えないで、もう少し適切になるように手を入れましたということです。こどもの言葉を読みやすくしましたということだと思います。この後もいくつか出てきますが赤字になっていますので、この後取り上げませんが、ご覧になってください。よろしいでしょうか。

続いて26ページ、「自分らしさ」の「成果指標」で、注釈を付けたということです。「特別支援教室支援完了者割合」、この言葉が分かりにくいのではないかとということで、これまで注釈は1、2とありましたが、さらに3を加えました。これは「多ければいいとか少なければいいということではなくて、この割合です」ということです。退した級数が多くなったから良かったとは言い切れないところではありますけれども、頑張って支援を完了したこどもたちもいますよということでもあります。

ここに「QR」と書いてありますが、ここに QR コードがついて、何か資料が読めるということでしょうか。

**○庶務課長**

それぞれの用語の内容について、江東区のホームページに飛べるような形のQRコードを掲載しています。区のホームページでも紹介していますので、そこをQRコードから見ていただく形になっています。また、このQRコードの手前に下線が引いてありますが、直接リンクを貼れるようにもなっておりますので、ホームページに直接飛べるようにもなっています。

**○委員長**

ちなみに、26ページのQRコードはどのようなホームページに飛ぶのでしょうか。27ページのQRコードはどうでしょうか。

**○庶務課長**

区のホームページで特別支援教室についての説明、案内がありますので、こちらにリンクしています。27ページについては、具体的な就学相談、進学・進級にあたっての相談ができる区の窓口ですとか、相談内容について紹介するホームページにリンクしています。現在でもホームページで説明がありますので、他の計画では用語の説明を付けていることもありますが、さらに具体的な説明については直接リンク先で見ていただくような形で考えています。

**○委員長**

この「QR」は、計画の各ページの内容について説明しているホームページへリンクしているということです。それでは、26ページの※3についてはよろしいでしょうか。

27ページのところに、こどもの意見も赤字で直っているところがあります。「エレベーターやスロープ等を設置して、校舎の段差をなくす」とありますが、前にどのような言葉を使っていましたか。

**○庶務課長**

素案の際には、「エレベーターなどの設置、スロープ設置による校舎の段差の軽減が必要」ということで、どちらかといいますと提言といいますか、提案からの意見を取っていた文章になっていましたので、今回、他と同じように、こどもからの要望という形に、読みやすく、表現も改めたところです。

### ○委員長

こどもたちの提言から持ってきていた言葉をそのまま書いていたものを、こどもたちの意見としてしっかり書いていただいたということですね。よろしいでしょうか。

### ○委員

小学校も中学校も不登校のこどもが多くなっているような気がします。ほとんど学校にいないというこどももいるし、だんだん増えていると感じます。このような状況はどうしたらよろしいのでしょうか。

### ○教育長

先ほど、委員長が確認していただいた5ページにお戻りいただきたいのですが、不登校の児童生徒のグラフがあります。今年度、新たに入れたグラフですが、数値が下がっています。令和6年度は、中学校も小学校も下がっています。これは江東区のこれまでの取組の成果だと思っています。全国的には増えている傾向がありますが、東京都も中学校はちょっと減ったり、本区は小学校も中学校も減っていて、ここにはないですが出現率も今回減っています。こういった部分では、不登校がすごく増えていると全国的に話題にはなっていますが、江東区だけを見ていくと減ってきているところがあります。細かな話をさせていただくと、不登校総合対策を「KOTOこどもかがやきプラン」というものに変えました。不登校になっているこどもだけを何とかしようというのではなくて、不登校にならない環境を作ろうということで全てのこどもを対象にした計画に変えてきたこと、また、江東区は全校に別室の教育支援センターを校内に作りました。学校に行けなかったけれども、教室まではなかなか行けないかもしれないけれども、学校の中の別な部屋だったら行けるかもしれないと、こどもを

支えられる部屋を全校に作りました。これが一つ成果になっていて、そこに通えるようになった子どもが「ちょっと行ってみようかな」ということで教室に行けるようになったり、教室が息苦しくなった子どもが別室に行って少し落ち着いて考えたいとか、「ちょっとあそこに行ってみたい」といってから教室に戻るなど、そういった柔軟な体制を取り始めて、少しずつ成果になってきています。ただ、これが今年どうか、来年どうかはまだわからないところではありますが、こういった取組が少しずつ成果として出てきていると思っています。それから、先ほど委員からご指摘があった不登校の子どもに対する考え方という部分については、ずいぶん変わってきています。子どもたちも「あの子は頑張っているけれども学校に行けない」といったについての理解は、今まで以上にあります。以前はズル休みのような言葉が昔はあったと思いますが、今そのような言葉を使う子どもはいないですね。不登校の子どもたちを理解しようと支え合う風土ができてきています。ただ、環境としては、家庭の考えで「行かなくていい」、「行かせない」といったところは何とかなければいけないところはあると思いますし、私たちが考えている大事なところの一つは、「つながりがない子どもをゼロにする」という考え方をとっています。どうしても学校に来られない子どもを無理やり学校に連れ出すのではなくて、来られない子どもにどのような支援をつなげていけばいいかというところで、例えばスクールソーシャルワーカーが積極的に家庭に入ってその子どもとのつながりを作る。もしくは、その中でスクールカウンセラーだったら会ってもいいといった子どもがいれば、そこをつないでみる。そういったつながりを持って、それが少しずつ少しずつ輪が広がってきていて、「関わりゼロ」のこどもの数も減ってきています。そのように取組を進めてきています。やはり人数としては、多いか少ないかというところも思います。それは何とかなければいけないということはあると思いますが、大事なことはその子どもがしたいことを何とか実現させられるように支えていく。家庭が考えているところに対して、「行かせたいなと思っているのですが難しいのです」ということがあれば、どういっ

た支援が必要かという形でつなげていく。文部科学省も「学校に行くことのみを目的とする  
ことではなく」と言っていますので、 私たちもそこを上手に対応していきたいと思ってい  
ます。今委員から危惧されているとの発言がありました。私たちも本当に同じような思いな  
ので、 こどもたちと寄り添いながら、 これからも進めていければと思っています。

#### ○委員

ありがとうございます。もう一つ、 小学校の時に塾通いをするこどもがとても多くなった  
と思います。気持ちはわかりますが、 不思議だなと思います。私も不登校のこどもを何人か  
知っていますが、 親の方も何も喋れないような感じで家庭の問題はやはりあるなど、 親御さ  
んの問題もあると思っています。

#### ○委員長

どうもありがとうございました。本当に委員のおっしゃるようなことは社会全体の問題で  
もあり、 ここで言えば江東区の区民の皆さんの思いではあるのですが、 先ほど教育長もおっ  
しゃった「KOTOこどもかがやきプラン」、 29 ページですね、 このような教育推進プラ  
ンの中に皆さんのご懸念とかご心配とかいただいているところを載せたいという思いがここ  
に表れていると私も思っております。本当に不登校の問題も考え方がずいぶん変わってきた  
というか、 理解が進んできたという言い方で私はいいいのではないかとと思っています。私がこ  
どもの頃に学校に行かないと言ったら大変でしたが、 そういう時代から、 今は学校に行くこ  
とのできないこどもたちに様々な場面に寄り添いながら学校に来られることを一番に目標に  
はしたいけれども、 来られないこどもたちに対してはどのような支援をしていけるのかとい  
うことで、 江東区では大きくこの「KOTOこどもかがやきプラン」などで進めているとい  
うことです。期待したいかなと思っています。

#### ○委員

不登校になって、 20 歳くらいになって、 結局、 仕事はアルバイトで差が出ているという  
姿を見たりすると、 何ともいえずかわいそうになります。

#### ○委員長

みんなで社会で支えていって、その子どもたちが適切な状況になるように、自覚を促しながら支えるということをしていきたいのだと思っています。そういった意味では、今回の推進プランでは色々なところを委員の皆さんからご指摘いただいて、それをまとめていただいたのではないかと理解しています。

## ○委員

先ほど教育長からお話しいただいたことの補足となりますが、南砂中学校では不登校の子どもが非常に増えている中で、来年から教室が増えるくらい登校する生徒が増えてきているということが見られます。それが事実、数字に出てきているのが、今、この教育委員会の方の色々な考えで多様化というものを実績として出されているのではないかと考えております。来年以降も、子どもたちとコミュニケーションを取るというきっかけを、学校自体でも非常に増やしております。先ほどおっしゃっていたアルバイトで済んでしまうということがあると、やはりインターネットの時代なので、そこだけで小さくなるということももちろんないとは限らないですが、やはり人と人のコミュニケーションが取れる環境を南砂中学校でも取り組んでいて、なるべく受け入れています。不登校だけではなくて、体の不自由な方も健常者も含めて、今、南砂中学校には非常に集まっています。その結果が、本当にこういった資料とともに、江東区はこういうことができるということが、すごくその学校に入れて非常に嬉しくて、この場でも体験させていただいているので、これからももっと進んで新しいことをやっていけたらと思います。

## ○委員長

建設的なご意見をありがとうございました。

それでは、第3章、47ページをご覧ください。「つながり」の施策のところです。読書活動のところ、図書館においてもただ本を読むというところではなく、様々な文化活動の中心ではありますが、そこでもやはり安全安心な環境づくりという視点でしっかりやっていこうということで、ここに入れていただきました。大勢人が集まれば、当然安全安心の視点も

こどもたちに必要となりますので重視していただければと思います。

48ページ、「江東区立図書館ビジョン」ですが、これは策定しているビジョンがこちらに掲載されるということです。図書館には今たくさんの人が集まっているということでしたが、私も図書館というのは文化の指標だと思っていました、今、紙の活字離れが進んでいると言われる中で、「では、図書館には行かないのか？」ということではなく、文化の中心、たくさんの人が集まってくる素晴らしい場所だと思っています。その図書館ビジョンが掲載されるということです。

他に細かい誤字は直してあるということで、今回は大きく修正したと明示していただいた箇所を中心に確認させていただきました。他に何かありますでしょうか。

#### ○委員

資料2のスケジュールについて、こども版の発行というのは、この計画（本編）をこども版にするということでしょうか。

#### ○庶務課長

そうですね。今までですと、区役所が作る計画では概要版のようなものを作りますが、今回はこどもたちの意見も取り入れましたので、こどもたちにとって分かりやすくなるようなものということで、概要版の代わりにこども版を作ることを考えています。

#### ○委員

わかりました。ありがとうございました。こどもに見せたのですが、「写真が多いけど字も多いね」と言われました。こどもたちに分かりやすいように作っていただければと思います。

#### ○委員長

それではこの計画（案）でございますが、本日皆様から貴重なご意見をいただきましたので、それを踏まえまして最終調整させていただければと思います。この件につきましては、教育委員会の皆様と私と前島副委員長にご一任いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは最終調整につきましては、私たちが責任を持って行いますので、よろしく願いいたします。では、本件については終了させていただきます。

それでは議題3「その他」に移ります。事務局から何かございますか。

**○庶務課長**

事務局からは特にございません。

**○委員長**

それでは、本日の議題1から3につきましては終了させていただきます。ありがとうございました。

この会ですが、令和6年度から7年度と2年間にわたりまして実施してきました。第7回ということで、最後の委員会です。これまで本当にありがとうございました。本日をもって終了になります。

このプランは令和8年度からということで、今年の4月から実施になります。

**○委員**

前回の表紙は水色でしたが、今回は色を少し変えてください。

**○庶務課長**

こちらについても、今までと違った形で、より皆さんに親しみやすく、読まれるような形のデザインを考えているところです。出来上がりましたら冊子にしてお送りしますので、よろしく願いいたします。

**○委員長**

それでは、委員の皆様から最後に一言いただければと思います。

(議事終了後、全委員から一言ずつ感想などを述べてもらった。)

**○委員長**

それでは、教育長。最後に一言いただければと思います。

**○教育長**

まずは、若林委員長、前島副委員長はじめ委員の皆さまのご協力のもと、1年半以上にわたってこの会を進めていただきまして、なんとか形になってきたことを心より感謝申し上げます。また、各委員からお言葉をいただいている中で、本当に過分なお褒めをいただきまして、ありがたいなと思っています。向井委員も、そして吉田委員も、地域やスポーツ推進委員会とお話をしていただいたということで、いいなと思ったところは、ぜひ皆さん、声を大にして伝えていただければと思っています。

現在、私も江東区の教育がよくなってきているなど実感しています。これは「私が」ということではなくて、本当に現場の、今日も後ろにいますけれども、現場の先生方が本当によく頑張ってくださっている。そして、さらに地域の皆さん、保護者の皆さんが本当に協力してくださっていることが、ここにつながってきているなと思っています。ちょっとずつちょっとずつ変わってきている中で、教育はなかなか数値では表しにくい、見えにくいものだということがあります。ただ、進めていく部分では、小さな輝きだったり、小さなプラスをしっかりと見ていくことが大事だろうと思っています。なかなか、そういったところではないところが教育は注目されているところがあり、悪い情報であったり、批判的なものがSNSや報道されているところがあります。その反面、いいところや満足されていることは、なかなか外に出づらいというところがありまして、それを私たちは広げていかなければいけない、「できているよ」ということを出していかなければいけない。これは、学校が子どもたちの自己肯定感を上げていくこととつながるのですね。今、先生方には、具体的に声を出して伝えてほしいと言っています。「いいね、君、できているよ、素晴らしいじゃないか」と声をかけていくことで、子どもたちが先生に褒められた、認められた、大人から認められたということが自己肯定感につながっていくので、そういうことを伝えてほしいと言っていますけれども、私たちも同じで、そういったことをしっかりとやっていくことが必要だろうと思っています。

今回、プランを作っていく中で非常に難しかったことは、次の学習指導要領がまだ出来上がってないところです。今、論点整理の素案が出て、学習指導要領を作る文部科学省の中に中央教育審議会があり、その中の各ワーキンググループで専門の方々が非常に細かい討議をしています。日々その情報をチェックしているのですけれども、先ほどパブリックコメントの中にも探究の話もありましたが、実は探究ということも探究自体の理解が十分ではないということで、そのことも今検討されています。それから、今回プラスさせていただいた情報活用能力、これも情報部会というところがあって今検討していますが、次の学習指導要領を受けて中学校で技術情報科という新たな教科を作ろうという動きがあったり、総合的な学習の時間の中に情報のコマを作ろうという動きがあったり、様々出ています。保護者の方々とお話をしていると、昨日も福山委員と青少年委員会の意見交換会がありまして様々な話をさせていただいたのですが、保護者の方々の中にやはりA Iの広がり、ChatGPTをこどもたちが使いながら色々なことをしているということであったり、SNSを介して事件に巻き込まれるとかいったことを危惧されていることもあります。そういった部分での情報活用能力も細かな部分が出てきていて、しっかりとこどもたちに教えるべきことを教えようということが出てきています。そのようなこともまだ具体的ではない中でこの計画を作っていますので、今後大枠では作れていますが、細かなところはこれからかなと思っています。この第2期プランも若林委員長からお褒めの言葉をいただきましたが、これを作った後に「Challenge Wednesday」というものを作って、それから「KOTOこどもかがやきプラン」を作って、「Action24」を作って、それからこどもたちの「チャット相談」を入れたり、新たなこととどんどんチャレンジしてきました。それからTGGの体験が始まったり、それから有明アリーナを使ってこどもボッチャ大会が始まったり、ここにはないことをその後もしてきています。プランが柱になって、ここからさらに新たな取組が、こどもたちを取り囲む環境が変わってきている中で、私たちが必要と思ったことはどんどん取り入れていかなければいけないと思

っています。今回、第3期プランが出来上がったとしても、私たちはそれに安住することなく、日々より良いものにチャレンジしていかなければいけないと思っているところであります。今回、前回の大枠は引き継ぎながら、キーワードの「With・・・ともに」の「with」を取りました。これは、より分かりやすくという部分で、英語の「with」だけを入れる意味は何だということ、今、中国人の方も韓国人の方もいらっしゃる、それ以外の国の方々もいらっしゃる。ならば、もっとシンプルに「ともに」にした方がいいのではないかとということで、「ともに」だけにしたということです。それから、各学校と教育委員会で想いを一つにして取り組んでいることは、「みんな、かがやく」というこの言葉です。この言葉もここに入れ込もうということで入れさせていただきました。ぜひ、皆様にも江東区の教育はキーワードが「ともに」で、目指す姿は「みんな、かがやく」であるということをご理解いただきながら、この委員会としては終わりますけれども、各方面でまだ皆様とはお力をお借りしながら、そしてつながりながら前に進んでいきたいと思っておりますので、これからも江東区の教育にお力添えいただければと思っております。

この後、完成するまで委員長、副委員長とやり取りをさせていただきながら、先ほど委員からも表紙の色は変えた方がいいというお話もありましたので、より良いものになら前に進めていければと思っております。出来上がりましたら、早速皆様にはお送りをしたいと思っておりますけれども、今後とも江東区の教育にお力添えいただければと思っています。本当に長きにわたりましてお力添えいただき、ありがとうございました。

## ○委員長

以上を持ちまして、第7回教育推進プラン・江東策定委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

以上